



三年先の稽古

發行：校長 益子 朗

「三年先の稽古」に基づく学校経営

こはにのい誌たたつ中長
 こ難ごで上は。だい学会先
 でし覧、市たくて校の日、
 おいい保発販だ機紹の機
 伝のた護行さ、会介取関全
 えでだ者はれそをさり誌国
 しよくの3ての得せ組に中
 よそこ皆月い機まてみ大
 うのと様々な関しいに信校
 と内容
 の一部を
 います。



本校では、目指すべき教育の基
 本姿勢として、校是「三年先の稽
 古」を掲げています。これは勝つ
 の言葉であり、目先の一番に勝つ
 ために、将来の自分を練習するの
 なく、将来自分をどこまで高め
 るのかを見定め、そこに向かって
 地道な稽古を重ねていくことを説
 いた金言です。

最終的には、目の前の成果ではなく、
 最も本質的に目指すべき目標を念頭に
 教育活動を進めています。そして
 次の三つが現在大信中学校が目指
 している学校の姿です。

(1) **くりみん**な**が**行きたくなる**学校**づ

ひとりとひとりに「学校が楽しい
 自分が生かされる場がある」とい
 う実感を持つていせ、「学校はいつ
 も君を待っている」というメッセ

校歌(二)

鉄は打て打て 熱いうち
夢は抱け抱け 若いうち
虹の未来に あこがれを
歌う大信 大信中学 われら

す。ジを伝えることを心がけていま
す。こうした取り組みによって、ま
一日当たりの欠席者数は一昨年度
六・四人、昨年度四・二人、今年
度は一・一人にまで改善され、全
員出席の日も多くなってきました

(2) 「現場力」 「本番力」を磨く

が本校生徒は素直で心温かい、
何より素晴らしいので、反
面、人前で堂々と話せない、大
な試合で本来の力が出せない、
つた、弱気な側面が見られるの
課題でした。

「**現場力**」「**本番力**」を
 合言葉に、授業・部活動・生徒
 会など様々な機会を捉え、ことあ
 る毎に生徒に緊張する場面で自分
 の力を試す局面を意図的に設け、
 徹底して強化を図っています。

(3) 地域に支えられ、地域を支える

本校は「村」の時代から地域に
 密着した学校でしたが、近年や
 地域との関係が希薄になってきた
 ことは否めません。そこで、学校
 だよりを回覧板に入れていただい
 て、情報を発信しています。
 一昨年度の創立五〇周年を機に
 数々の学校行事に地域の人々を招
 いています。今はコロナ危機で一
 時停止を余儀なくされていますが
 この流れは今後も絶やさずに継続
 していきたくと思います。

校長のつぶやき

2年生と1年生は

一つ違いの
友でライバル

イし時イのラ違緒動は1年
 チた代チイそイいにし、学生中
 ロがからイそれバのブレます1期が校
 ー選タ互選ー思でも輩ー。とみ緒の
 手イいの手い出するチ1でい部
 のプは実と松井の機ム期。る活
 打全力を松井選手と松井秀喜選
 撃セン違認めは、プロ
 スいるます仲高
 やす。で校
 スピ。



松井選手・イチロー選手

時代、試合前に球場で顔を合わせると、必ず年下の松井選手の方から挨拶に行き、また試合後には、年上のイチロー選手が時々食事にも誘ったりしていたそうです。

もう一組は俳優の佐藤浩市さんと中井貴一さんです（私は早生まれなので、佐藤浩市さんとは同年であり、中井貴一さんとは同年です）。二人とも日本を代表する名優ですが、彼らには共通点があります。二人とも父親が偉大な俳優ですが、佐藤浩市さんは父・三國連太郎さんとはずっと別家庭で育ち、中井貴一さんは3歳で父

事を佐田啓二さんをして、故で亡くしたのを、二父とくもほとのに、どち親を知らず、に育ち、そのしで、者になつたので、つまり二人とも親の七光りではなく、実力で現在の地位を築いたのです。二人は普段は仲



佐藤浩市 中井貴一

のいい友人だそうですが、この二人が共演すると、すさまじく見応えのある作品になります。お互いの個性や演技力を目一杯ぶつけ合っても、相手にそれをしつかり受け止めて返す力があることを認め合っているからでしょう。

他にも**爆笑問題**や**ナインティナイン**など、一つ違いの友でありライバルという例はたくさんあると思います。その関係がうまくいっている場合に共通して言えるのは、**兄貴分が決して偉そうにしていないことと、弟分が決して生意気にならないこと**だと思います。

毎日の部活動の中では、時にはヨコの、時にはあくまでもよい意味でタテの関係を経験しているわけですね。後輩の面倒をしつかりとみられない、お手本を示せない先輩や、先輩の言うことをちゃんと聞けない、敬語も使えない後輩では、部活動がうまくいく訳がありません。

これは将来社会に出てからの対人関係に、必ず役立つ経験ではないでしょうか。

人と人としては上下分け隔てなく仲良くし、なおかつ必要な場面では「**長幼の序**」をきちんと守る、そんな人間関係を身につけてくれる、と思います。